

# 監視委員会評価部会報告書

令和元年度第1四半期及び第2四半期  
環境放射線監視結果について

令和2年2月20日  
評価部会長 望月 孝史

## II 監視結果の概要

### II - 1 短期的変動調査結果

原子力施設の平常稼働時に放出される放射性物質の他，事故等により放出される放射線・放射性物質の有無や環境への影響の有無を**早期に把握**する

評価対象期間	<b>[第188報] 平成31年4月～令和元年6月・[第189報] 令和元年7月～9月</b>
調査内容	環境(事業所敷地外):空間ガンマ線量率,放射能(大気,農畜産物,海洋)の測定 事業所敷地内:空間ガンマ線量率,放射能(大気)の測定 放出源(原子力施設の排気筒,排水溝):排気,排水に含まれる放射能の測定

### II - 2 長期的変動調査結果

原子力施設**周辺環境**における放射線と放射性物質のレベル，蓄積傾向及び地域分布の状況などの**長期的変動の有無を把握**する

評価対象期間	<b>[第189報] 平成31年4月～令和元年 9月</b>
調査内容	環境(事業所敷地外):空間ガンマ線量率,漁網表面吸収線量率, 放射能(大気,陸土,陸水,海洋など)の測定 事業所敷地内:空間ガンマ線量の測定

## Ⅱ－1 短期的変動調査結果

### 1 環境における測定結果

### 1－1 空間ガンマ線量率測定結果

- ・ 月平均値は、全98地点において、福島第一原発事故前の**平常の変動幅の上限値（100nGy/時）を下回っていた。**
- ・ 1時間の最大値は、降雨の影響により観測された
- ・ 平成30年度第3・第4四半期と同程度で推移

単位：nGy/時

	地区名	第1四半期 4～6月		第2四半期 7～9月		月平均値 (事故前) の平常の 変動幅	H30年度 第3・4四半期の 月平均値	1時間値の最大値	
		月平均値	1時間値 の最大値	月平均値	1時間値 の最大値			事故前 (H22年度)	事故後 (H23.3.15)
一般 環境	東海地区<35地点>	35～67	94 <sup>注1</sup>	34～67	80 <sup>注1</sup>	100 (上限値)	35～71	80	3,900
	大洗地区<15地点>	43～70	85 <sup>注1</sup>	43～69	92 <sup>注1</sup>		44～71	71	3,100
	比較対照地点<1地点>	52～53	74 <sup>注1</sup>	52	74 <sup>注1</sup>		53	72	1,500
	原電又は機構大洗 から10～30km圏内 <22地点>	32～57	90 <sup>注1</sup>	31～56	99 <sup>注1</sup>		32～58		
事業所 周辺監 視区域 境界	東海地区<14地点>	52～74	94 <sup>注1</sup>	51～74	99 <sup>注1</sup>		52～79	77	5,200
	大洗地区<11地点>	47～91	110 <sup>注1</sup>	45～89	110 <sup>注1</sup>		48～94	69	3,100

(注)樹木等が多く存在している場所では、空間ガンマ線量率が高くなる傾向にある

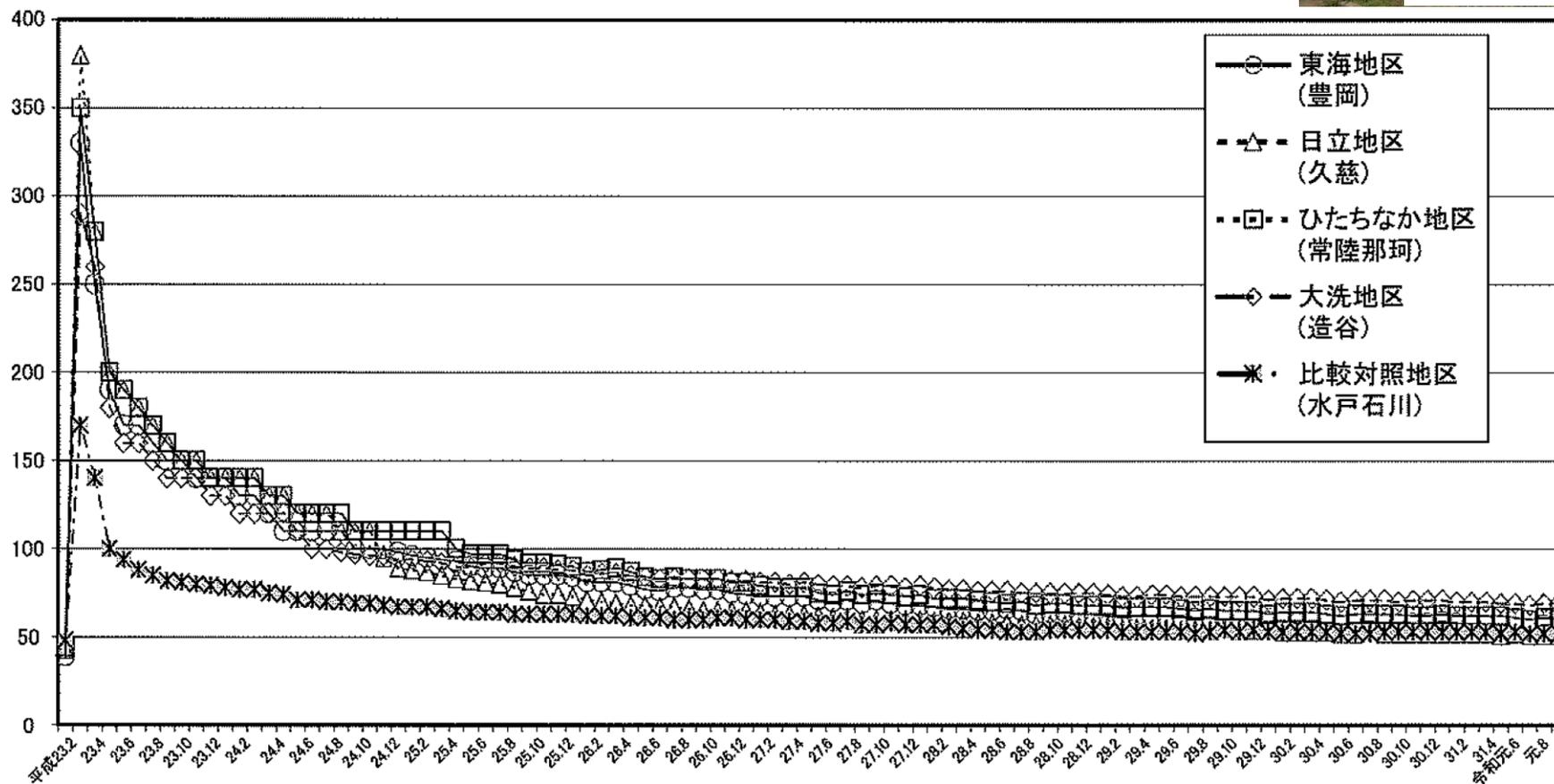
(注1)：降雨の影響による

# 1 - 1 空間ガンマ線量率測定結果

## 空間ガンマ線量率測定結果の一般環境における 月平均値の経月変化

(福島第一原発事故前 (平成23年 2月) から令和元年 9月まで)

(nGy/時)



## 1 - 2 大気中の放射性核種分析結果

- ・ 福島第一原発事故の影響により，大気塵埃，降下塵から $^{134}\text{Cs}$ ， $^{137}\text{Cs}$ が検出
- ・ 平成30年度第3・第4四半期と同程度で推移

項目	地点	核種	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	事故前の 最高値	平成30年度 第3.4四半期	事故後の最高値 (H23年3月)	単位
大気塵埃	東海村村松など 15地点	$^{134}\text{Cs}$	不検出 (<0.1) ～0.19[1]	不検出 (<0.1)	不検出 (<0.1)	不検出 (<0.1) ～0.57[1]	2,800	mBq/m <sup>3</sup>
		$^{137}\text{Cs}$	不検出 (<0.1) ～2.4[7]	不検出 (<0.1) ～0.34[3]	不検出 (<0.1)	不検出 (<0.1) ～6.7[7]	3,800	
降下塵	水戸市上国井町 など3地点	$^{137}\text{Cs}$	不検出 (<0.4) ～1.6 [3]	不検出 (<0.4) ～1.5 [3]	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.4) ～3.9[3]	27,000	Bq/m <sup>2</sup>

(注)大気塵埃では  $^{54}\text{Mn}$ ,  $^{60}\text{Co}$ ,  $^{95}\text{Zr}$ ,  $^{95}\text{Nb}$ ,  $^{106}\text{Ru}$ ,  $^{144}\text{Ce}$ ,  $\text{Pu}$   
 降下塵では  $^{54}\text{Mn}$ ,  $^{60}\text{Co}$ ,  $^{95}\text{Zr}$ ,  $^{95}\text{Nb}$ ,  $^{106}\text{Ru}$ ,  $^{144}\text{Ce}$ も測定しているが不検出

※[ ]内は検出した地点数

## 1 - 3, 4 牛乳（原乳）, 海水中の放射性核種分析結果

- ・ 牛乳(原乳)の $^{131}\text{I}$ ，海水の $^3\text{H}$ はいずれも全地点において不検出

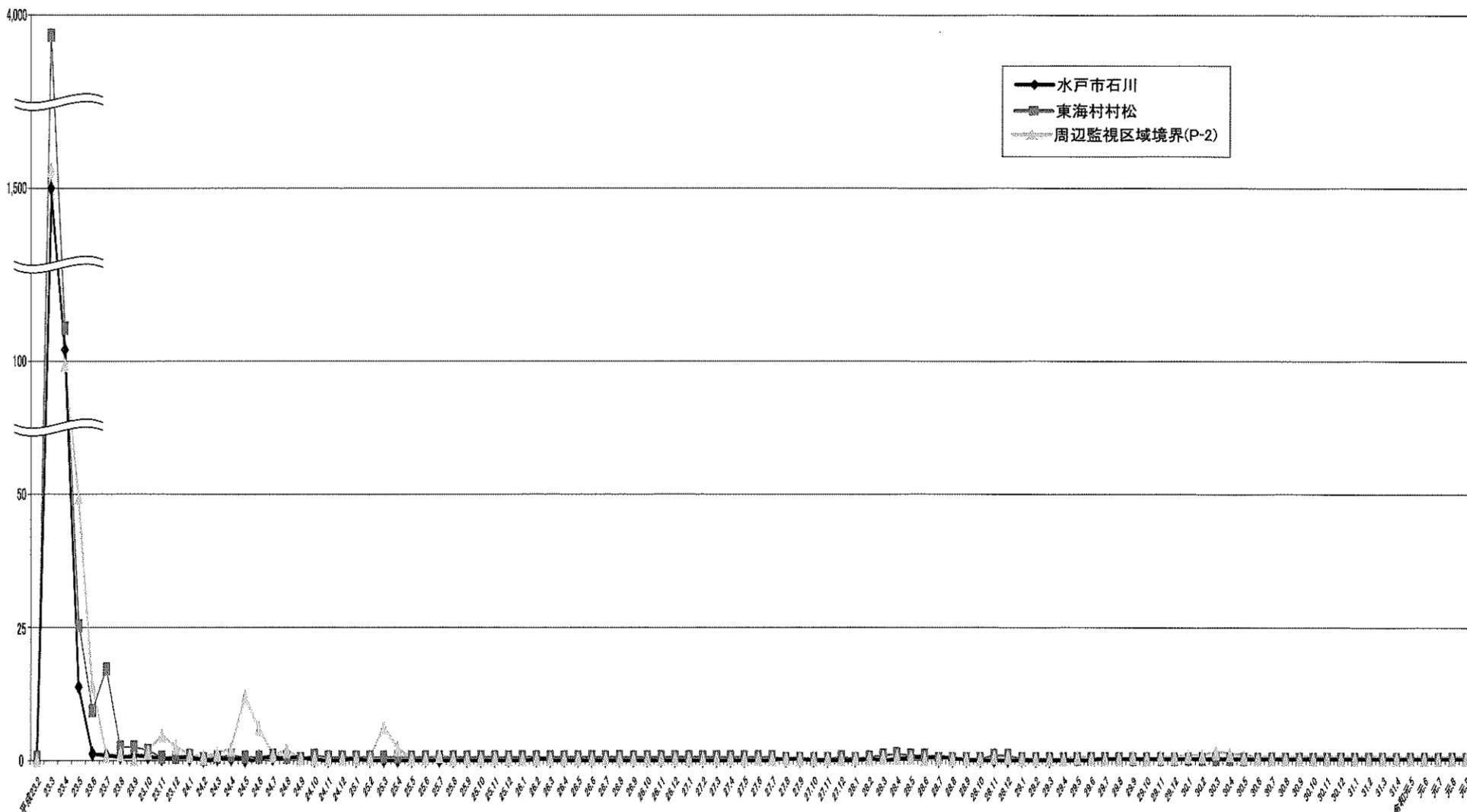
項目	地点	核種	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	単位
牛乳	那珂市豊喰など 5地点	$^{131}\text{I}$	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	Bq/L
海水	久慈沖など 12海域	$^3\text{H}$	不検出 (<20)	不検出 (<20)	Bq/L

# 1 - 2 大気中放射能測定結果

## 1 - 2 - 1 大気塵埃中の放射性核種分析結果

大気塵埃中の<sup>137</sup>Cs経月変化

(mBq/m<sup>3</sup>)

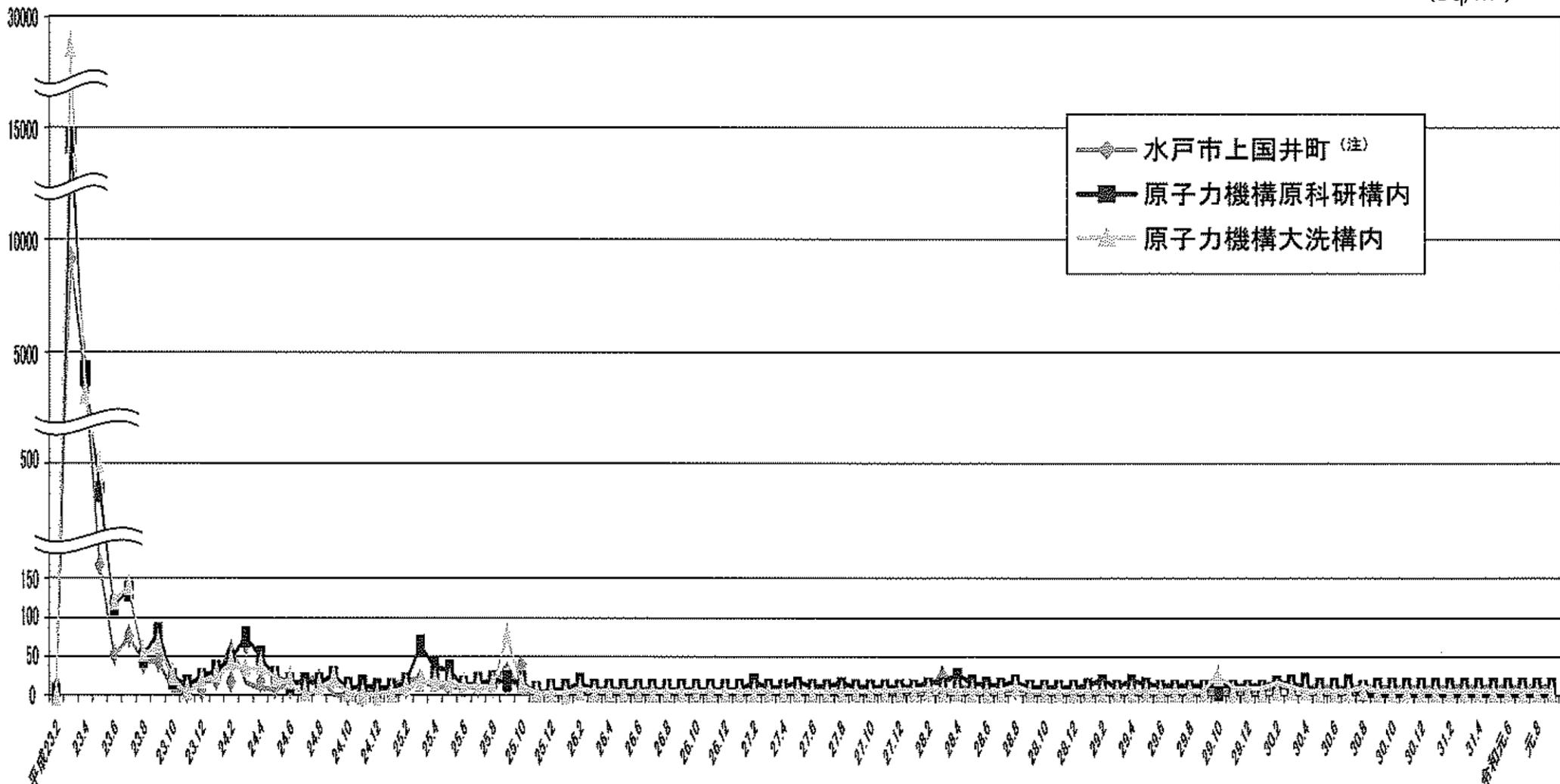


# 1 - 2 大気中放射能測定結果

## 1 - 2 - 2 降下塵中の放射性核種分析結果

降下塵中の $^{137}\text{Cs}$ 経月変化

(Bq/m<sup>2</sup>)



注) 平成25年3月26日より水戸市愛宕町から水戸市上国井町に地点変更。

## 2 主な原子力施設の敷地内における測定結果

### 2-1 空間ガンマ線量率測定結果

- ・月平均値は、福島第一原発事故前の**平常の変動幅の上限値（100nGy/時）**を下回っていた
- ・平成30年度第3・第4四半期と同程度で推移

単位：nGy/時

地区名	第1四半期 4～6月		第2四半期 7～9月		月平均値 (事故前)の 平常の変動幅	H30年度 第3・4四半期 の月平均値	1時間値の最大値	
	月平均値	1時間値 の最大値	月平均値	1時間値 の最大値			事故前 (H22年度)	事故後 (H23.3.15)
東海地区<1地点> (サイクル工研)	45	66	44～45	65	100 (上限値)	45～46	52	4,000
大洗地区<1地点> (機構大洗)	52～53	76	50～52	74		53～54	63	2,900

### 2-2 大気塵埃中の放射性核種分析結果

- ・原科研など3地点で測定
- ・福島第一原発事故の影響により、第1・第2四半期で1地点 **<sup>137</sup>Csが検出**
- ・平成30年度第3・第4四半期と同程度で推移

単位：mBq/m<sup>3</sup>

検出核種	分析値		事故前の 最大値	H30年度 第3・4四半期の 月平均値	事故後の最大値 (H23年3月)
	第1四半期4～6月	第2四半期 7～9月			
<sup>137</sup> Cs	不検出 (<0.1) ～0.41[1]	不検出 (<0.1) ～0.10[1]	不検出 (<0.1)	不検出 (<0.1) ～0.24[2]	2,400

(注)大気塵埃では <sup>54</sup>Mn, <sup>60</sup>Co, <sup>95</sup>Zr, <sup>95</sup>Nb, <sup>106</sup>Ru, <sup>144</sup>Ce, Puも測定しているが不検出

※[ ]内は検出した地点数

### 3 放出源における測定結果 3-1 排気中の放射能測定結果

#### 3-1-1 放射性核種分析結果（主要放出核種）

- ・ 排気のあった排気筒で測定(第1四半期は37排気筒, 第2四半期は36排気筒)
- ・ 原科研（燃料試験施設）など第1四半期は3排気筒,第2四半期は5排気筒で検出

→ 過去と同じレベル又はそれ以下（管理目標値を下回るレベル）

事業所名	施設名	核種名	3ヶ月平均濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )		3ヶ月平均濃度の過去最大値 (Bq/cm <sup>3</sup> )	平成30年度 第3・4四半期 3ヶ月平均濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	<参考> 管理目標値 (Bq/cm <sup>3</sup> )
			第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月			
原子力機構 原科研	燃料試験施設	希ガス	不検出	$5.9 \times 10^{-3}$	$1.4 \times 10^{-2}$	不検出～ $5.6 \times 10^{-3}$	$7.8 \times 10^{-2}$
原子力機構 サイクル工研	再処理施設 主排気筒	<sup>3</sup> H	$4.0 \times 10^{-5}$	$4.4 \times 10^{-5}$	$2.6 \times 10^{-3}$	不検出～ $3.9 \times 10^{-5}$	$2.4 \times 10^{-1}$
	再処理施設 第二付属排気筒	<sup>14</sup> C	不検出	$4.9 \times 10^{-5}$	$8.2 \times 10^{-5}$	不検出	$2.4 \times 10^{-3}$
積水メディカル	第4棟排気筒	<sup>3</sup> H	$1.9 \times 10^{-5}$	不検出	$2.2 \times 10^{-5}$	$1.9 \times 10^{-5} \sim 1.9 \times 10^{-5}$ $4.6 \times 10^{-6} \sim 4.7 \times 10^{-6}$	$7.4 \times 10^{-4}$ $1.6 \times 10^{-4}$
		<sup>14</sup> C	$4.8 \times 10^{-6}$	$3.8 \times 10^{-6}$	$2.3 \times 10^{-5}$		
NDC	化学分析棟(R棟)	<sup>131</sup> I	$1.1 \times 10^{-9}$	$1.0 \times 10^{-9}$	$2.1 \times 10^{-8}$	不検出～ $2.4 \times 10^{-9}$	$7.4 \times 10^{-8}$

## 3-1 排気中の放射能測定結果

### 3-1-1' 放射性核種分析結果（その他検出された核種）

- 原子力機構大洗（JMTR）で $^{137}\text{Cs}$ ，原電東海及び東海第二，廃棄物処理建屋で $^3\text{H}$ を検出  
→ **過去と同じレベル又はそれ以下(周辺監視区域境界外における法令値を下回るレベル)**

事業所名	施設名	核種名	月間平均濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )		月間平均濃度の過去最大値 (Bq/cm <sup>3</sup> )	<参考>法令値 (Bq/cm <sup>3</sup> )	平成30年度第3・4四半期月間平均濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
			第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月			
原電	東海発電所	$^3\text{H}$ 注1	$2.3 \times 10^{-6}$ ~ $4.2 \times 10^{-6}$	$5.3 \times 10^{-6}$ ~ $6.0 \times 10^{-6}$	$1.4 \times 10^{-3}$	$3.0 \times 10^{-3}$	$3.3 \times 10^{-6}$ ~ $6.6 \times 10^{-6}$
原電	東海第二発電所	$^3\text{H}$ 注2	$3.3 \times 10^{-7}$ ~ $3.8 \times 10^{-7}$	不検出 ~ $1.2 \times 10^{-7}$	$1.4 \times 10^{-4}$	$3.0 \times 10^{-3}$	$5.4 \times 10^{-7}$ ~ $8.5 \times 10^{-7}$

(注1)：設備内に残留している炉内グラファイトの不純物 ( $^6\text{Li}$ ) の放射化によるもの

(注2)：設備内に残留している冷却材中の重水素の放射化によるもの

### 3-1-2, 2' 全ベータ放射能測定結果

- 全23排気筒で測定し，いずれも不検出

### 3-1-3 全アルファ放射能測定結果

- 核管センター新分析棟など3排気筒で測定し，いずれも不検出

## 3-2 排水中の放射能測定結果

### 3-2-1 放射性核種分析結果（主要放出核種）

- ・事業者が、排水のあった排水溝で測定（第1四半期で12排水溝，第2四半期は14排水溝）
- ・第1四半期は4排水溝，第2四半期は5排水溝で検出 → **全て法令値以下**

事業所名	排水溝名	主要核種名	3ヶ月平均濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )		法令値 (Bq/cm <sup>3</sup> )	平成30年度 第3・4四半期 3ヶ月平均濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
			第1四半期 4~6月	第2四半期 7~9月		
原子力機構 原科研	第2排水溝	<sup>3</sup> H <sup>7</sup> Be <sup>54</sup> Mn <sup>137</sup> Cs	6.0×10 <sup>-2</sup> 5.9×10 <sup>-5</sup> 不検出 1.7×10 <sup>-6</sup>	1.1×10 <sup>-1</sup> 9.8×10 <sup>-5</sup> 1.7×10 <sup>-5</sup> 1.3×10 <sup>-5</sup>	6×10 注1 3×10 1 9×10 <sup>-2</sup>	6.1×10 <sup>-2</sup> ~1.2×10 <sup>-1</sup> 不検出~9.8×10 <sup>-5</sup> 1.1×10 <sup>-5</sup> ~3.5×10 <sup>-5</sup> 2.5×10 <sup>-6</sup> ~1.2×10 <sup>-5</sup>
原子力機構 大洗	北地区	<sup>3</sup> H	不検出	2.7×10 <sup>-5</sup>	6×10 注1	2.3×10 <sup>-5</sup> ~7.9×10 <sup>-3</sup>
原電	東海第二発電所	<sup>3</sup> H	4.2×10 <sup>-3</sup>	9.1×10 <sup>-3</sup>	6×10 注1	6.4×10 <sup>-3</sup> ~9.6×10 <sup>-3</sup>
NDC	排水貯槽	<sup>60</sup> Co <sup>137</sup> Cs	1.2×10 <sup>-4</sup> 1.1×10 <sup>-4</sup>	3.1×10 <sup>-4</sup> 不検出	2×10 <sup>-1</sup> 9×10 <sup>-2</sup>	不検出~4.0×10 <sup>-4</sup> 不検出~1.0×10 <sup>-4</sup>
積水メディカル	調整槽	<sup>3</sup> H <sup>14</sup> C	9.6×10 <sup>-1</sup> 1.2	2.5×10 <sup>-1</sup> 9.1×10 <sup>-1</sup>	2×10 注2 2	2.0×10 <sup>-2</sup> ~2.3×10 <sup>-1</sup> 2.8×10 <sup>-1</sup> ~1.3

(注1)：水としての法令値 (注2)：有機物としての法令値

## 3-2 排水中の放射能測定結果

### 3-2-1' 放射性核種分析結果（主要放出核種）

- ・県が、原科研第1排水溝など12排水溝で測定し、第1四半期に8排水溝、第2四半期に7排水溝で検出→ **全て法令値以下**

排水溝名	主要核種名	分析結果 (Bq/cm <sup>3</sup> )		法令値 (Bq/cm <sup>3</sup> )	平成30年度 第3・4四半期 分析結果 (Bq/cm <sup>3</sup> )
		第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月		
原子力機構原科研 第2排水溝	<sup>3</sup> H <sup>22</sup> Na <sup>54</sup> Mn	不検出～ $1.4 \times 10^{-1}$ 不検出 不検出	$7.0 \times 10^{-4} \sim 1.9$ 不検出～ $6.4 \times 10^{-5}$ 不検出～ $2.6 \times 10^{-5}$	$6 \times 10$ 注2 $3 \times 10^{-1}$ 1	$7.5 \times 10^{-4} \sim 2.3$ 不検出 不検出
原子力機構大洗 北地区	<sup>3</sup> H <sup>137</sup> Cs注1	不検出～ $7.3 \times 10^{-3}$ 不検出	不検出～ $1.8 \times 10^{-2}$ 不検出～ $5.3 \times 10^{-5}$	$6 \times 10$ 注2 $9 \times 10^{-2}$	不検出～ $1.4 \times 10^{-3}$ 不検出～ $3.8 \times 10^{-5}$
原電東海第二	<sup>3</sup> H	不検出～ $4.1 \times 10^{-4}$	不検出	$6 \times 10$ 注2	不検出～ $1.1 \times 10^{-3}$
JCO	U	$2.9 \times 10^{-5} \sim 6.9 \times 10^{-5}$	$4.8 \times 10^{-5} \sim 9.1 \times 10^{-5}$	$2 \times 10^{-2}$	$4.2 \times 10^{-5} \sim 1.6 \times 10^{-4}$
三菱原燃	U	$2.9 \times 10^{-4} \sim 9.1 \times 10^{-4}$	$7.6 \times 10^{-5} \sim 2.3 \times 10^{-4}$	$2 \times 10^{-2}$	$2.6 \times 10^{-4} \sim 6.8 \times 10^{-4}$
原燃工	U	$1.3 \times 10^{-5} \sim 4.8 \times 10^{-5}$	$1.4 \times 10^{-5} \sim 3.0 \times 10^{-4}$	$2 \times 10^{-2}$	$2.2 \times 10^{-5} \sim 9.6 \times 10^{-5}$
NDC	<sup>60</sup> Co <sup>137</sup> Cs	$5.8 \times 10^{-4}$ $3.3 \times 10^{-4}$	$2.5 \times 10^{-4} \sim 4.8 \times 10^{-4}$ $1.7 \times 10^{-4} \sim 3.0 \times 10^{-4}$	$2 \times 10^{-1}$ $9 \times 10^{-2}$	不検出～ $1.4 \times 10^{-3}$ $1.0 \times 10^{-4} \sim 2.8 \times 10^{-4}$
積水メディカル	<sup>3</sup> H <sup>14</sup> C	不検出～7.3 $4.6 \times 10^{-1} \sim 1.4$	$3.0 \times 10^{-1} \sim 4.2 \times 10^{-1}$ $5.3 \times 10^{-1} \sim 7.9 \times 10^{-1}$	$2 \times 10$ 注3 2	$1.1 \times 10^{-1} \sim 2.5$ $8.2 \times 10^{-2} \sim 1.5$

(注1)：放射性物質の放出を伴う運転等は実施されていないため、環境中に残っている福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響と推定

(注2)：水としての法令値 (注3)：有機物としての法令値

## 3-2 排水中の放射能測定結果

### 3-2-1 放射性核種分析結果（その他検出された核種）

・原子力事業者が第1四半期は13排水溝，第2四半期は17排水溝で測定し，主要放出核種以外の核種について，3排水溝で検出→**全て法令値以下**

事業所名	排水溝名	核種名	分析結果 (Bq/cm <sup>3</sup> )		法令値 (Bq/cm <sup>3</sup> )	平成30年度 第3・4四半期 月平均濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
			第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月		
原子力機構 原科研	第1排水溝	<sup>232</sup> Th <sup>注1</sup>	不検出～ $3.6 \times 10^{-7}$	不検出～ $5.3 \times 10^{-7}$	$4 \times 10^{-3}$	不検出～ $6.2 \times 10^{-7}$
	第2排水溝	<sup>90</sup> Sr <sup>注2</sup>	$2.4 \times 10^{-8}$	不検出	$3 \times 10^{-2}$	$1.1 \times 10^{-8} \sim 2.0 \times 10^{-8}$
原電	東海	<sup>90</sup> Sr	不検出	$1.9 \times 10^{-6}$	$3 \times 10^{-2}$	不検出

(注1)：第4研究棟の排水系統に残留しているものの影響

(注2)：JRR-3及び再処理特別研究所の排水系統に残留しているものの影響  
放射性廃棄物処理施設での蒸発処理によるものの影響

## 3-2 排水中の放射能測定結果

### 3-2-2, 2' 全ベータ放射能測定結果

- ・第1四半期は12排水溝，第2四半期は13排水溝で測定し，第1四半期は10排水溝，第2四半期は7排水溝で検出→**全て監視委員会が定めた判断基準を下回った**

排水溝	測定濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )				判断基準 (Bq/cm <sup>3</sup> )	平成30年度第3・4四半期分析結果 (Bq/cm <sup>3</sup> )	
	第1四半期(4～6月)		第2四半期(7～9月)			月最高濃度	月平均濃度
評価対象	月最高濃度	月平均濃度	月最高濃度	月平均濃度	月最高濃度 2×10 <sup>-2</sup> 月平均濃度 4×10 <sup>-3</sup>	月最高濃度	月平均濃度
原子力機構原科研 (第1)	不検出～2.7×10 <sup>-4</sup>	不検出	不検出	不検出		不検出～2.8×10 <sup>-4</sup>	不検出
原子力機構原科研 (第2)	不検出～2.9×10 <sup>-4</sup>	不検出	不検出	不検出		不検出～2.9×10 <sup>-4</sup>	不検出
原子力機構原科研 (第3)	不検出～2.1×10 <sup>-4</sup>	不検出	不検出	不検出		不検出～1.1×10 <sup>-3</sup>	不検出
原子力機構サイクル工研 (第1)	不検出～8.1×10 <sup>-4</sup>	不検出	不検出～4.4×10 <sup>-4</sup>	不検出		不検出～6.0×10 <sup>-4</sup>	不検出～3.1×10 <sup>-6</sup>
原子力機構大洗	不検出～2.9×10 <sup>-4</sup>	不検出	不検出～3.4×10 <sup>-4</sup>	不検出～2.3×10 <sup>-4</sup>		不検出～7.8×10 <sup>-4</sup>	不検出～2.8×10 <sup>-4</sup>
三菱原燃	4.2×10 <sup>-4</sup> ～1.1×10 <sup>-3</sup>	—	2.8×10 <sup>-4</sup> ～6.0×10 <sup>-4</sup>	—		3.9×10 <sup>-4</sup> ～1.5×10 <sup>-3</sup>	—
原燃工	5.7×10 <sup>-4</sup> ～7.8×10 <sup>-4</sup>	—	不検出～8.5×10 <sup>-4</sup>	—		3.9×10 <sup>-4</sup> ～1.5×10 <sup>-3</sup>	—
JCO	2.0×10 <sup>-4</sup> ～9.6×10 <sup>-4</sup>	—	不検出～5.4×10 <sup>-4</sup>	—		不検出～6.9×10 <sup>-4</sup>	—
NDC	1.2×10 <sup>-3</sup>	—	5.3×10 <sup>-4</sup> ～6.6×10 <sup>-4</sup>	—		2.9×10 <sup>-4</sup> ～1.4×10 <sup>-3</sup>	—
積水メディカル	不検出～9.7×10 <sup>-4</sup>	不検出	不検出～4.0×10 <sup>-4</sup>	不検出	不検出～1.4×10 <sup>-3</sup>	不検出	

## 3-2 排水中の放射能測定結果

### 3-2-3 再処理施設排水中の放射性核種分析結果

- ・ サイクル工研が、 $^3\text{H}$ など14核種について分析し、 $^3\text{H}$ を検出
- ・ 県が、 $^3\text{H}$ など9核種について測定し、 $^3\text{H}$ 、Puを検出 → **全て法令値以下**

測定者	核種名	評価対象	分析結果		法令値	平成30年度 第3・4四半期 分析結果
			第1四半期4～6月	第2四半期7～9月		
原子力機構 サイクル工研	$^3\text{H}$	3ヶ月放出量 (MBq)	$9.3 \times 10^3$	$1.6 \times 10^4$	$4.7 \times 10^8$	$1.0 \times 10^4 \sim 8.1 \times 10^4$
県	$^3\text{H}$	最大放出量 (Bq/cm <sup>3</sup> )	8.0	$1.5 \times 10$	$2.5 \times 10^4$	$8.6 \sim 1.7 \times 10$
	Pu		$1.2 \times 10^{-5}$	$1.4 \times 10^{-5}$	$3.0 \times 10^{-2}$	$9.2 \times 10^{-6} \sim 9.3 \times 10^{-6}$

### 3-2-4 再処理施設排水中の全ベータ放射能測定結果

- ・ サイクル工研測定分，県測定分とも不検出

### 3-2-5 排水中の全ガンマ放射能連続測定結果

- ・ 原科研(第2), サイクル工研(再処理施設), 機構大洗(北地区), 原電(東海第二)の4排水溝で測定
- ・ **福島第一原発事故で放出された放射性物質の影響等**により第1四半期は2排水溝, 第2四半期は3排水溝で降雨時に検出

# Ⅱ - 2 長期的変動調査結果 1 環境における測定結果

## 1 - 1 空間ガンマ線量率測定結果 1 - 1 - 1 サーベイ結果

- ・福島第一原発事故で放出された放射性物質の影響により、**全56地点で事故前の測定値（20～64nGy/時）を上回った**

単位：nGy/時

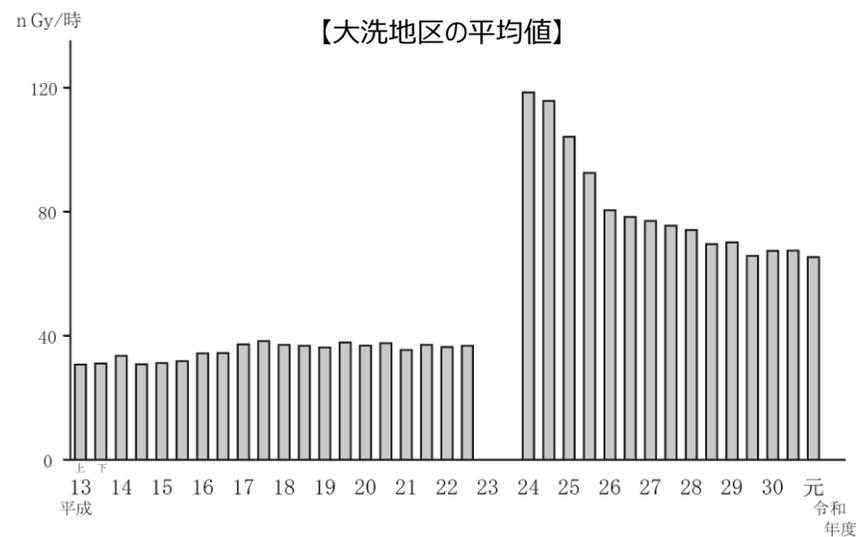
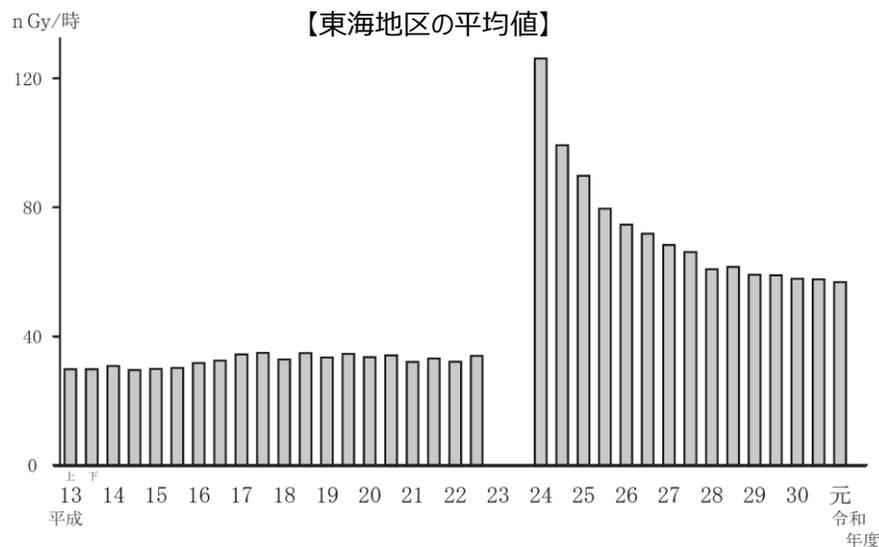
地区名	地点数	令和元年度上半期の測定値	事故前の測定値 (H22年度)	平成30年度下半期の測定値	事故後の最高値
東海地区	36	33～72	20～47	36～74	370
大洗地区	18	40～88	27～64	43～88	180
比較対象地区	2	53	34～40	54～56	140



(注) 樹木等が多く存在している場所では、サーベイ（空間ガンマ線量率）が高くなる傾向にある

※ 事故後は県内全域の特別調査を実施しており、同地点における平成23年度の測定結果はない

### ・サーベイ（空間ガンマ線量率）経年変化



# 1 - 1 - 2 積算線量測定結果

・福島第一原発事故で放出された放射性物質の影響により、**93地点中82地点で平常の変動幅の上限（地点ごとに設定、0.12～0.26mGy/6ヶ月）を上回った**

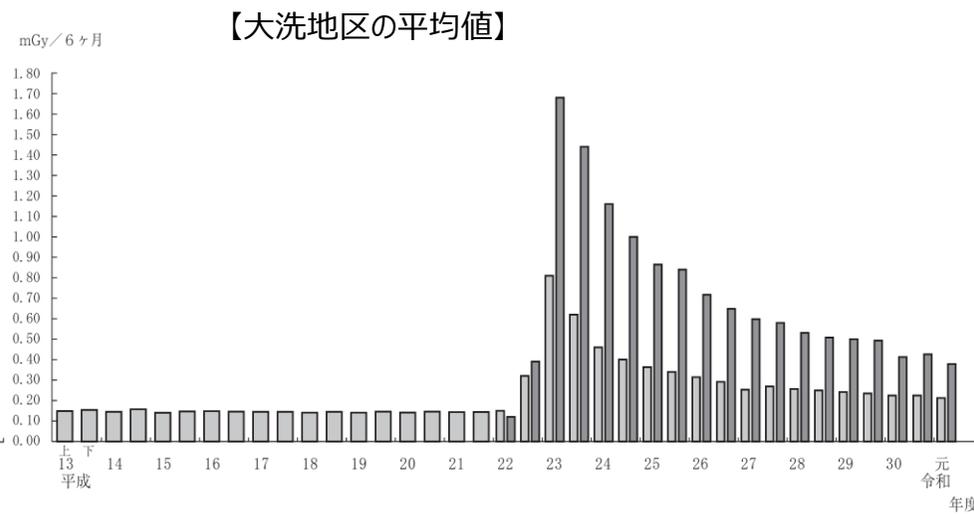
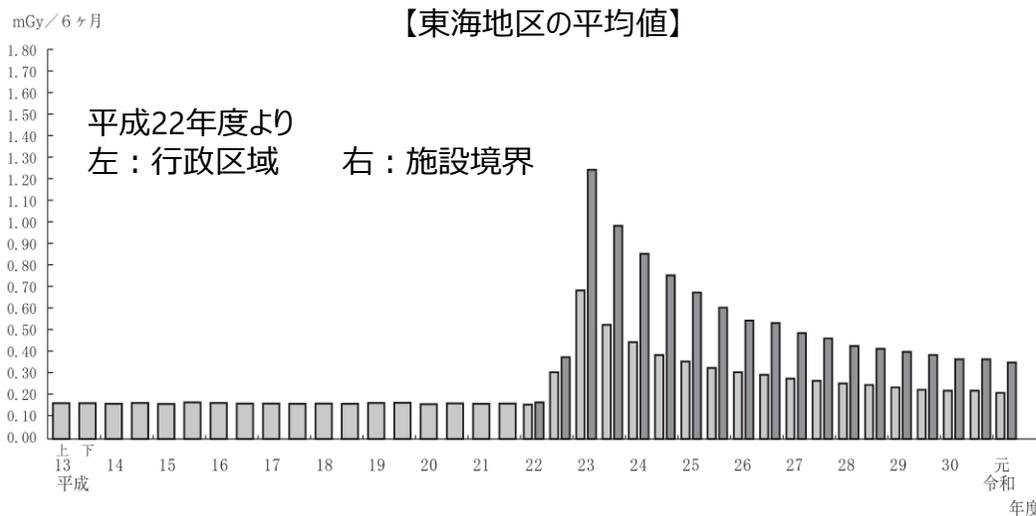


(注)樹木等が多く存在している場所では、積算線量が高くなる傾向にある

地区名		地点数		令和元年度 上半期の測定値	平常の 変動幅	平成30年度 下半期の測定値	事故前の測定値 (H22年度)	事故後の 最高値
東海地区	行政区域	67	47	0.15～0.31[39]		0.12～0.26 (上限値)	0.16～0.35[42]	0.11～0.22
	施設境界		20	0.11～0.86[18]	0.17～0.86[19]		0.13～0.22	3.4
大洗地区	行政区域	23	15	0.17～0.33[14]	0.18～0.36[14]		0.12～0.18	1.8
	施設境界		8	0.24～0.88[8]	0.26～0.93[8]		0.11～0.13	3.4
比較対象地区	行政区域	3		0.19～0.22[3]	0.18～0.21[3]		0.14～0.17	0.67

※[ ]内は平常の変動幅の上限を上回った地点数 単位：mGy/6ヶ月

・積算線量経年変化



## 1 - 2 漁網表面吸収線量率の測定結果

- 東海沖において曳船，測定し，ベータ線，ガンマ線は不検出

## 1 - 3, 4 環境（大気，土壌）中の放射能測定結果

- 福島第一原発事故の影響により<sup>134</sup>Cs, <sup>137</sup>Csが検出

項目・地点		検出核種	令和元年度 上半期の測定値	事故前の最高値	平成30年度 下半期の測定値	事故後の 最高値（注）	単位
降下塵	水戸市上国井町など 3地点	<sup>137</sup> Cs	不検出（<0.4）～1.6[3]	不検出（<0.4）	不検出（<0.4）～3.9[3]	27,000	Bq/m <sup>2</sup>
土壌	水戸市見川など 8地点	<sup>134</sup> Cs	4.7～61[8]	不検出（<1）	5.0～56[8]	860	Bq/kg・乾
		<sup>137</sup> Cs	65～810[8]	85	57～620[8]	1,500	
河底土	東海村新川河口 1地点	<sup>134</sup> Cs	4.7[1]	不検出（<1）	4.0[1]	120	Bq/kg・乾
		<sup>137</sup> Cs	59[1]	1.5	44[1]	140	
海岸砂	大洗町大貫など 3地点	<sup>137</sup> Cs	1.3～2.2[2]	0.57	不検出（<1）～2.0[2]	53	Bq/kg・乾

（注）・事故後の最高値は，平成23年度の分析値

・土壌については，県内全域の特別調査のため，平成23年度の同地点の分析結果がないため，平成24年度以降の最高値

・降下塵では<sup>54</sup>Mn, <sup>60</sup>Co, <sup>95</sup>Zr, <sup>95</sup>Nb, <sup>106</sup>Ru, <sup>144</sup>Ceを，土壌・河底土・海岸砂では<sup>54</sup>Mn, <sup>60</sup>Co, <sup>106</sup>Ru, <sup>144</sup>Ceも測定しているが不検出

# 1-5, 6, 7 環境（陸水, 海洋等）中の放射能測定結果

- 福島第一原発事故の影響により $^{134}\text{Cs}$ ,  $^{137}\text{Cs}$ が検出
- 海底土からPuが検出されたが, 過去のレベルと同程度だった。

項目・地点		検出核種	令和元年度 上半期の測定値	事故前の最高値	平成30年度 下半期の測定値	事故後の 最高値(注)	単位
河川水 湖沼水	那珂川下流など 8地点	$^{137}\text{Cs}$	不検出 (<0.004) ~0.011[3]	不検出 (<0.004)	不検出 (<0.004) ~0.012[5]	0.49	Bq/L
飲料水	水戸市上国井町 など10地点	$^{137}\text{Cs}$	不検出 (<0.004)	不検出 (<0.004)	不検出 (<0.004) ~0.0047[1]	0.019	Bq/L
海水	久慈沖など 1 2 海域	$^{137}\text{Cs}$	不検出 (<0.004)	0.0048	不検出 (<0.004) ~0.0044[2]	0.046	Bq/L
海底土	久慈沖など 1 2 海域 (Puは9 海域)	$^{134}\text{Cs}$	不検出 (<0.4) ~1.4[5]	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.4) ~1.3[4]	110	Bq /kg・乾
		$^{137}\text{Cs}$	2.1~21[12]	4.7	1.9~17[12]	530	
		Pu	0.24~0.67[9]	1.8	0.22~0.84[9]	1.3	
排水口 近辺土砂	原科研排水口など 6地点	$^{137}\text{Cs}$	不検出 (<1)	不検出 (<1)	不検出 (<1)	34	Bq /kg・乾

※[ ]内は検出した地点数

(注) ・事故後の最高値は, 平成23年度の分析値

・海水については, 県内全域の特別調査のため, 平成23年度の同地点の分析結果がないため, 平成24年度以降の最高値

・河川水・湖沼水では $^3\text{H}$ ,  $^{54}\text{Mn}$ ,  $^{60}\text{Co}$ ,  $^{106}\text{Ru}$ ,  $^{144}\text{Ce}$ , 飲料水では $^{54}\text{Mn}$ ,  $^{60}\text{Co}$ ,  $^{106}\text{Ru}$ ,  $^{144}\text{Ce}$ , U,

海水・海底土は $^{54}\text{Mn}$ ,  $^{60}\text{Co}$ ,  $^{90}\text{Sr}$ ,  $^{95}\text{Zr}$ ,  $^{95}\text{Nb}$ ,  $^{106}\text{Ru}$ ,  $^{144}\text{Ce}$ ,

排水口近辺土砂では $^{22}\text{Na}$ ,  $^{54}\text{Mn}$ ,  $^{58}\text{Co}$ ,  $^{60}\text{Co}$ ,  $^{90}\text{Sr}$ ,  $^{152}\text{Eu}$ ,  $^{154}\text{Eu}$ , Uも測定しているが不検出

## II 監視結果の評価

### 1 短期的変動調査結果

平成31年4～令和元年6月

- ・空間ガンマ線量率(モニタリングステーション, モニタリングポスト)の測定結果が平常の変動幅の上限値を下回っていた
- ・福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により,  $^{137}\text{Cs}$ などの放射性核種が大気塵埃, 降下塵から, 全ガンマ放射能が原子力施設の排水から検出された

令和元年7～9月

- ・空間ガンマ線量率(モニタリングステーション, モニタリングポスト)の測定結果が平常の変動幅の上限値を下回っていた
- ・福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響等により,  $^{137}\text{Cs}$ などの放射性核種が大気塵埃, 降下塵及び原子力施設の排水から, 全ガンマ放射能が原子力施設の排水から検出された

### 2 長期的変動調査結果

平成31年4～令和元年9月

- ・福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により, 空間ガンマ線量率(サーベイ)の測定結果が事故前の測定値を上回り, **積算線量の測定結果も平常の変動幅を上回った**
- ・また, 同様に, 降下塵, 土壌, 陸水, 海底土などから $^{137}\text{Cs}$ などの放射性核種が検出された